

びしゅっけつ
「鼻出血」

平成 26 年 2 月放送

池田 拓生

鼻出血いわゆる鼻血は、誰でも一度は経験した事があると思います。鼻の中はとても皮膚が薄く、細かい血管がたくさん走っている場所ですので、ちょっとした刺激で血管が傷つくと出血し易いのです。特に動脈と言って、心臓から出てくる血管が傷つくと勢いよく出血します。典型的なのは「血圧の高めの人、寒い冬の朝、トイレでがんばって出すものを出したら、鼻血まで出てしまった」と言うパターンです。よく出る場所は鼻の入口から少し入った、右と左の穴の境の部分です。どんな出血でも止血の基本は圧迫です。ただ鼻の中は圧迫が効きにくい所です。指で左右の鼻をつまんで圧迫しますが、止血しない時は、綿球や丸めたティッシュペーパーを栓の様にして一個挿入します。この栓は完全に止まるまで、入れておきましょう。ただし、一日以上置いておくのはよくありません。また栓を 2 個以上入れるのも鼻の中に残してしまう可能性があります。

この場所の動脈の出血は、電気凝固と言う方法があります。よく「耳鼻科へ行って焼いてもらおうといいよ」と言われるのはこの方法です。勢いのいい出血も一瞬にして止まります。ただし深い場所の出血や、静脈によるじわじわとした出血には効果がない場合があり、また個人差もありますが、電気を通す時、ほんの一瞬痛みがあります。まあ「改革のために痛みを伴うことは、仕方の無いことだ！」とどこかの国の政治家も言ってました。

鼻血がでたときは、まず慌てない事です。慌てると血圧も上がります。たくさん出た様でも大したことが無いことがほとんどです。横にならず、座った姿勢で、口に下りた血は飲み込まない様に、失った血を取り戻そうなどと、飲み込むと後で必ず気持ち悪くなり、吐き出してしまいます。

お子さんはよく鼻血が出ます。鼻の皮膚がまだ弱いのに、蓄膿、鼻炎などの鼻の病気になりやすく、また鼻くそをほじるのも大好きですから、刺激がいつも加わっている状態です。よくくり返す子は、蓄膿などの元の病気を治す方が早道である場合も多いです。一度出血すると何日も連続して出るのは、同じ場所にかさぶたが付いて止まって、取れて出血して、をくり返しているため、

心配ありませんが、止まるのに時間がかかる場合、手足を少しぶつけただけで、皮膚にあおざができたり、あるいは口の中に出血を伴っている場合は、血液の病気がある事があります。

